

令和3年度 調布市立若葉小学校 学校評価報告書（学校長 生田目 将）

学校の教育目標

『かしこく やさしく たくましく』

◎しっかり考え、進んで学ぶ子（進んで学び、自ら表現できる子ども【表現力】）

○思いやりのある子（優しい心を持ち、自分も他人も大切にできる子ども【協働する力】）

○明るく たくましい子（進んであいさつするとともに、心身を鍛える子ども【健康増進力】）

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

持続可能な未来を創造する子どもたちの育成！

「子どもたちの笑顔があふれる学校」「教職員が子どものために生き生きと働く学校」「保護者・地域が子どもをさせたい学校」

キーワードは「子ども第一主義」「良好な学習集団づくり」「新しい若葉小を児童と教職員の手で創造していく」

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	① 良好な学習集団づくり	A	① 「わかる」「できる」の実践	B	① オリパラ教育の推進	B
	② 多様性を受け入れる学校	B	② 「かかわる」の実践	A	③ 基礎基本の体力向上	B
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	① 教育活動アンケートの「楽しい」「集団づくりや生活指導」の項目で90%の肯定的評価を受けた。	A	① 授業の導入時にめあてを生徒と共有し、終末に振り替えることを全授業でほぼ100%実施できている。アンケートから思考ツールの有意義な活用がみられる。	A	① 全学年が複数回の校外学習を実施し、本物に触れる体験をする。地域人材やゲストティーチャー本物の指導を受ける。	B
② 教育活動アンケートにおいて児童や保護者には90%の肯定的意見を得るが、教職員のさらなる意識の向上が必要である。	B	② タブレットやワークシート等の活用(主体性)、ペア、小グループの成果をアンケートの90%以上の肯定的評価から受ける。	A	③ 校庭や四中の活用を工夫し、外遊びの環境設定は行った。体力向上への意識において児童・保護者アンケートの肯定的評価を80%程度にとどまった。	B	
学校関係者評価	学校が「学ぶ場」で楽しい「居場所」になっている。個々を見分けながらよく対応している。朝遊び朝清掃などの時間の有効活用で楽しい学校づくりが進む。SDGsなどの広範囲の学習の実施に期待します。		学習活動を通して、ほめ続けることや子どもにも「かかわること」を意識させる。積極的にタブレットを活用し定着している。アンケートの児童と教員との乖離とタブレット端末の利活用の差について検討が必要である。		四中連携の工夫や遊具の設置が効果的であり体力向上につながっている。各学年での校外学習の実施が評価できる。専門家や個人事業主などの職に関する本物を伝える環境づくりが必要である。	

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 特別支援教育の推進	5 連携の推進	6 特色ある教育活動の推進			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	① 校内委員会の組織化活性化	B	① 第四中学校との連携	A	① スポーツ大会の新設	A
	② 就学支援シートを活用するとともに、「個別指導計画」「個別の教育支援計画」を作成し、個に応じた指導を推進	A	② 地域との連携	B	③ 若葉ステージのリニューアル	A
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	① 担任・学年及び保護者を支援する具体的な手立てを100%提示する目標に達していない。	B	① 施設面の借用・授業での活用が順調に進んだ。情報共有に関して今後の課題である。	A	① 児童・保護者アンケートの肯定的評価を90%以上を達成した。	A
② 「個別指導計画」「個別の教育支援計画」の90%作成できた。個に応じた指導も校内委員会中心に推進した。	A	② 感染症の拡大が収まっている感に、地域諸会議に参加し、今後の見通しを共有できた。	B	③ 児童・保護者アンケートの肯定的評価を90%以上を達成した。	A	
学校関係者評価	個を最大限に伸ばす手立ての就学支援シートが十分に活用できたケースがある。年度の引継ぎに工夫や安定性が必要である。特別支援教育の児童保護者地域が理解することを進めてほしい。	連携対象との相乗効果が見られた。児童の喜びの声、四中進学者へのよい刺激になっている。コロナ対策(消毒等)で地域との連携の検討の余地がある。	運営体制の努力でスムーズな観覧が実現し、児童の発表には感動した。児童一人一人の満足感や達成感を感じた。児童の心を開かせるイベントづくりをともに考えたい。			

<b>人材育成・組織運営</b>	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹教諭の管理職としての資質向上に向け、適宜喫緊課題の解決を進めたが、定期的な主幹会での成果は上がっていない。</li> <li>・適材適所の配置により、意欲と達成感をもたせ、主任教諭の学校運営意識の向上を図ることは概ね達成したが、主幹教諭へ昇任意識の向上まで至らない。</li> <li>・支援・応援・指導し、子ども第一主義の理念での職務内容や教育実践を行えた。自立した教職員へ意識向上が今後の課題である。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>日々変化していく中で教員の努力は計り知れないものである。</p> <p>大変なことは承知の上で、児童の自主性を考えた教育活動の工夫に改善の余地を感じる。</p> <p>子ども第一主義の理念は伝わる。授業だけではなく、人生の先輩として子どもが目をキラキラさせるビジョンあふれる教職員集団であることを願う。</p> <p>卒業生や近隣大学と連携することで支援員等の確保の実現が可能である。</p>

<b>中期的な経営目標の達成状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数増加、校庭敷地面積の減少に伴う、運動機械や運動量の減少を、四中の校庭や体育館の昼休みや授業での活用の日常化にこぎつけた。今後は、体力健康の向上に対する児童の意識向上や体育の授業力向上が必要である。</li> <li>・児童に考えさせることや人権感覚の醸成については、さらに学校として取り組んでいく。</li> </ul>	
<b>次年度の重点課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育、健康教育の推進</li> <li>・健やかな体の土台に成り立つ、人権感覚の醸成、良好な学習集団の形成</li> <li>・自ら考え、自分たちの手で今より少しでも改善していこうとする児童と教職員をめざす</li> </ul>	